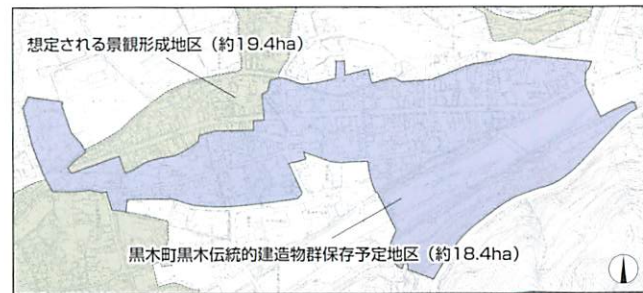


九州北部の伝統的建造物群保存地区



- A 朝倉市秋月〔城下町〕
- B うきは市筑後吉井〔在郷町〕
- C 八女市八女福島〔商家町〕
- D 黒木町黒木〔在方町〕
- E 日田市豆田町〔商家町〕
- F 有田町有田内山〔製磁町〕
- G 嬉野市塩田津〔商家町〕
- H 鹿島市浜庄津町浜金屋町〔港町・在郷町〕  
鹿島市浜中町八本木宿〔醸造町〕
- I 長崎市東山手・南山手〔港町〕
- J 雲仙市神代小路〔武家町〕
- K 平戸市大島村神浦〔港町〕

- アクセス
- JR鹿児島本線……JR羽犬塚駅より 約18km
  - 堀川バス……羽犬塚乗車、黒木下車 約60分
  - 九州自動車道……八女ICより約16km 約35分  
広川ICより約16km 約35分



まちなみ交流館 旧松木家住宅 (MAP H)  
☎ 834-1217 福岡県八女郡黒木町大字黒木80-2  
TEL.0943-42-0004  
開館 9:00~17:00 休館 月曜・年末年始



旧隈本邸 (学びの館・MAP A)  
☎ 834-1221 福岡県八女郡黒木町大字今1053  
TEL.0943-42-1982  
開館 9:00~17:00 休館 月曜・年末年始

編集・発行 黒木町教育委員会事務局  
☎ 834-1292 福岡県八女郡黒木町大字今1314-1  
TEL.0943-42-0297 (直通) FAX.0943-42-4650  
E-mail kyoiku@town.kurogi.lg.jp

黒木の町並みの歴史と特徴



東上町の町並み (大正4年・道路脇に水路と並木が見える)

◆ 久留米藩の在方町としての賑わい

鎌倉時代から続いた黒木氏の城館・猫尾城が天正12年(1584)の落城後、天正期の福島城主・筑紫広門により下町、慶長期の筑後国主・田中吉政により中町・上町が町立てされ、江戸初期の初代久留米藩主・有馬豊氏による豊後別路の往還道整備に伴う新たな町立てにより、茶・楮皮・堅炭など豊富な山産物を扱う在方町(農村地域における商工業の中心地)として繁栄し、同藩領五ヶ町の一つに数えられました。

◆ 町並みと町家の特徴

町並みは、素盞鳴神社を起点に上町・中町、矩折れて下町の東西に延び、津江神社に至る通りには、明治13年(1880)の大火前後に「居蔵造」形式の町家が建ち並び、明治後期から大正期に真壁造や洋風建築なども見られ、町並みは八女郡第二の商都と謳われ、全盛期を迎えます。

町家は妻入り二階建、屋根は入母屋造棧瓦葺を基本とし、両袖に下屋を降ろし、外壁は軒裏まで漆喰で塗り込めた大壁造に、緑泥片岩を腰壁に張るスケールの大きな外観も見られます。(背景:横溝家住宅正面腰壁)

◆ 町並みの成立は村並みから

町方に隣接する村方は田畑や樹林地などの生産基盤がよく残され、水辺の集落に洗い場や湧水地などが点在します。黒木の町並みは、これら農村集落から生まれたものといわれています。

町並み東端の素盞鳴神社は、樹齢600年を越す「黒木のフジ」が4月中旬から花房を垂下させ、西端には、800年の樹齢を重ねた「津江神社のクス」が雄大な樹冠を広げ、町並みを象徴する代表的な景観となっています。

町並み北側を限る上町の中井手用水沿いには、大正期までの酒蔵や醤油蔵、上町南側の黒木廻水路沿いには、明治期の土蔵や川に臨む離屋や主屋、中町北側の中井手用水沿いや、南側を限る下町南側の屋敷筋にも明治期の土蔵や納屋が建ち並び、水路の清流、護岸の玉石積み、畑地や小堂などが醸し出す独特の歴史的風致を形成しています。

◆ 柳田國男の見た町並み

明治41年(1908)、民俗学者・柳田國男は当地を訪れ、路傍の清流や並木、石張り塗り家を見聞し、全国に類まれな古く黒みたる特異な町並みとの印象を書き残しています。【参考:「並木の話」「豆の葉と太陽」(昭和16年、創元社)】

## ■ おすすめ町歩きコース (Typical Choice)

旧往還道沿いの「居蔵造」の町家、そこから路地に進むと水辺のせせらぎと、その先に村方の屋敷が点在します。四季折々に変化する村方景観と町方の伝統的建築物をたどりながら往時の町並みを再発見してください。

- A~C 旧隈本邸 [公開施設] → 上井手用水 → 東上町の屋敷尻 (中井手用水)
- D~F 黒木大藤 (素盞鳴神社) → 黒木堰 → 東上町
- G~I 南仙橋 → 西上町・旧松木家住宅 [公開施設] → 中町弘法堂
- J~L 中町 (大型居蔵造) → 覺法寺 (炬折れ) → 下町 (石張り居蔵造)
- M~O 下町の屋敷尻 → 東桑原 (黒木廻水路) → 旧豆生野村の湧水
- P~R 津江神社のクス → 専勝寺 → 中井手・谷川水系

## ■ 黒木の建築・土産遺産の特徴

### ◆ 元禄13年「上妻郡黒木町絵図」(こづまぐんくろぎまちえす)

江戸中期(18C初)の町並みの様子を描いた史料。全長288間、道幅4間、戸数170軒が描かれ、間口：2間半から最大23間、奥行：平均18~22間を測ります。中町北側に中井手用水、往還道東端には素盞鳴神社も見え、豊後別路沿いの賑わいがかかえまます。[一部改作]



### ◆ 居蔵造(いぐらづくり)

構造は妻入り二階建、屋根は入母屋造棧瓦葺の両袖に下屋を掛け降ろし、外壁は軒裏まで漆喰で塗り込めた大壁造とし、住居と蔵を兼ねた町家です。黒木には、腰壁に板状の緑泥片石を張る町家や土蔵も点在し、九州北部に所在する八女市八女福島、うきは市筑後吉井、嬉野市塩田津、日田市豆田町、鹿島市浜中町八本木宿などの商家に多く分布する建築様式です。



L 横溝家住宅



L 下町通り(北側)

### ◆ 廻水路(かすいろう)

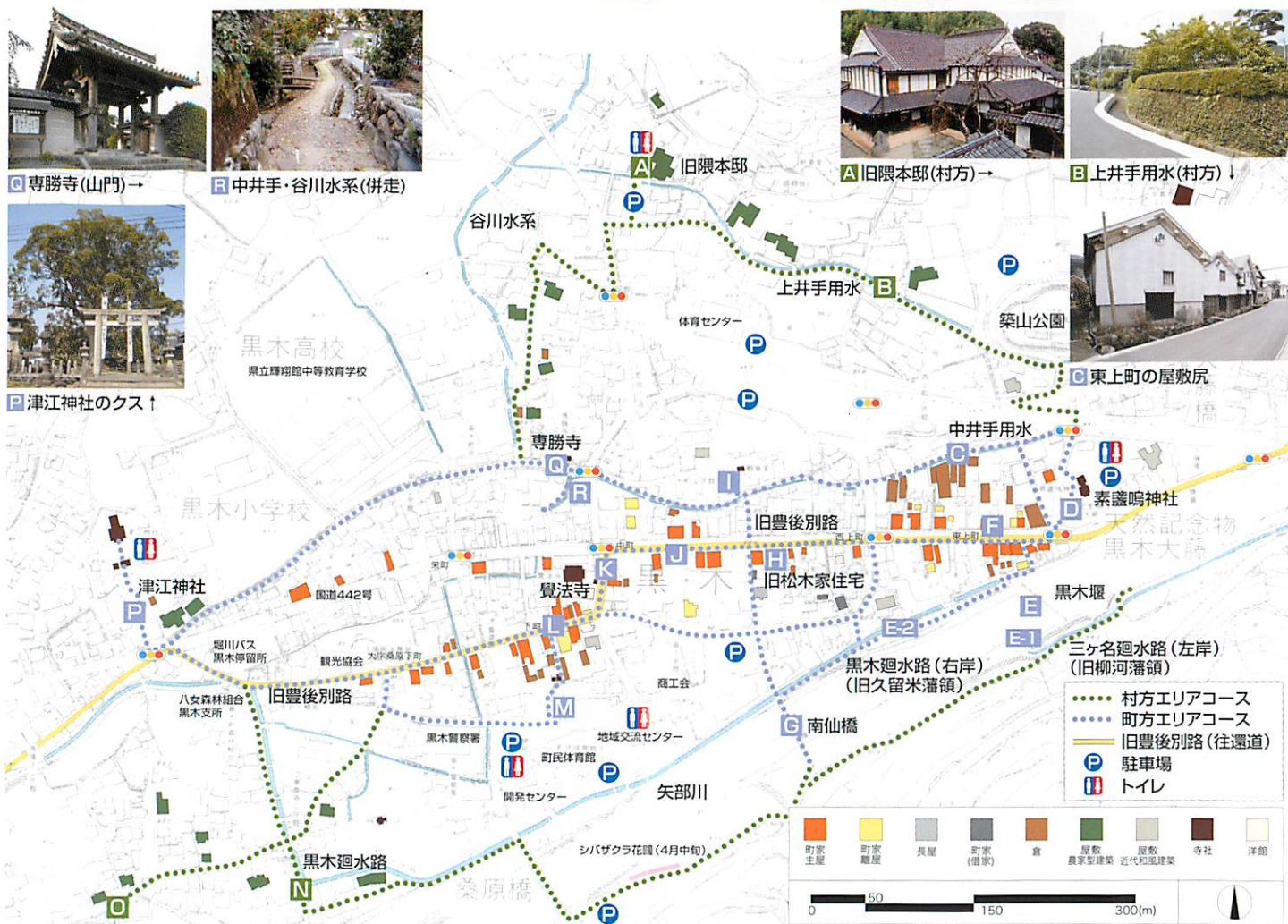
元和6年(1620)に矢部川を国境とした久留米藩と柳河藩は、堰と廻水路を普請して自領水の確保に努めました。廻水路は、堰から取水し田地を潤した余水を、対岸下流の他藩の堰を迂回し自領堰に戻す水利慣行で、矢部川中流域から上流域に発達した国内唯一の高度な土産遺産です。東上町の素盞鳴神社から南側へ坂道を下ると、矢部川右岸に久留米藩築造の黒木堰と黒木廻水路、左岸に柳河藩築造の三ヶ名廻水路(吐水口)を相対して観察することができ、天然の親水空間としても貴重です。



E 黒木堰(左)と吐水口(右) E-1 三ヶ名廻水路(吐水口) E-2 屋敷尻の黒木廻水路



## ■ 水が織りなす黒木の町並み景観 (Trail Map)



Q 専勝寺(山門)→



R 中井手・谷川水系(併走)



P 津江神社のクス↑



A 旧隈本邸(村方)→



E 上井手用水(村方)↓



C 東上町の屋敷尻



J 中町(大型居蔵造)→



K 覺法寺(炬折れ)→



L 下町(石張り居蔵造)



M 下町の屋敷尻→



N 東桑原(黒木廻水路)→



O 旧豆生野村の湧水  
まひのつむら



D 黒木大藤(素盞鳴神社)→



E 黒木堰(取水口)→



F 東上町(平入り・真壁)



G 木造・南仙橋→



H 旧松木家住宅(昭5・平19)→



I 中町弘法堂